

〔農場紹介〕

茨城県系統豚供給センター

茨城県養豚試験場 新井忠夫

1. 設置までの経過

茨城県では、昭和54年5月にランドレース種系統豚を造成、県花ばらにちなんでローズと名前を付けて認定を申請し、わが国第1号の系統豚として認定されました。

次いで昭和62年7月大ヨークシャー種系統豚ローズW-1の造成を終え、二つの系統豚を母体とした一代雑種を生産、その雌豚にデュロック種系統豚サクラ201を交配して三元雑種を生産し、肥育して出荷することを奨めています。更に肥育期間中に大麦の配合割合を多くした飼料を給与することによって、蓄積脂肪の色を白く、硬くして豚肉の品質向上を図るため種々の飼養試験を行いました。

三つの系統豚を決められた順序で交配、生産された子豚に定められた飼料を給与して肥育、出荷した肉豚が、枝肉となり日本枝肉格付協会の格付を受け、「上」以上に格付けされたものを銘柄豚肉ローズポークとして売り出しています。この生産体制が軌道に乗って来ましたが、生産母体となる系統豚の内、ローズは維持に入って15年を経過したので、養豚試験場で後継系統豚ローズL-2を平成6年に造成しました。

三元雑種生産の最後に供用するサクラ201が全農東日本原種豚場で清浄化して維持されており、そこから直接茨城県内で供用する数の種雄豚の供給は受けられないので、全農から或る纏まった数のサクラ201の譲渡を受け維持・増殖して配布する

ことにしました。

全農で清浄化状態で維持をしているので、受ける側も清浄化施設を設置して維持・増殖することになり、国の補助を得て県が施設を設置、系統豚の導入を行い、維持・増殖と配布及び能力調査等の施設の利用・運営は茨城県経済連で行うことになりました。

系統豚の維持は血液構成維持のため血統管理が面倒なこと、限られた頭数で維持・増殖を行うのはいろいろ制約があるので、将来は三つの系統豚を系統豚供給センターと養豚試験場の2カ所で分担して行い、より安定した維持をめざしています。

2. 施設の概要

| 施設名 | 数量 | 構造 | 面積等 |
|--------|----|-------|-----------|
| 種豚舎 | 1棟 | 木造平屋建 | 1,320.96㎡ |
| 分娩離乳舎 | 1棟 | 木造平屋建 | 1,701.15 |
| 育成検定舎 | 2棟 | 木造平屋建 | 2,721.12 |
| 出荷舎 | 1棟 | 木造平屋建 | 43.31 |
| 農機具資材庫 | 1棟 | 鉄骨平屋建 | 106.92 |
| 管理棟 | 1棟 | 木造平屋建 | 115.93 |
| 醗酵舎 | 1棟 | 木造平屋建 | 830.00 |
| 堆肥舎 | 1棟 | 鉄骨平屋建 | 140.40 |
| 汚水処理槽 | 1基 | | |
| 尿蒸発散施設 | 1基 | | |
| プロパン庫 | 1棟 | | |
| 焼却炉 | 1基 | | |
| 消毒ゲート | 1基 | | |
| 自家発電装置 | 1式 | | |

設置施設の概要は次のようになっています。

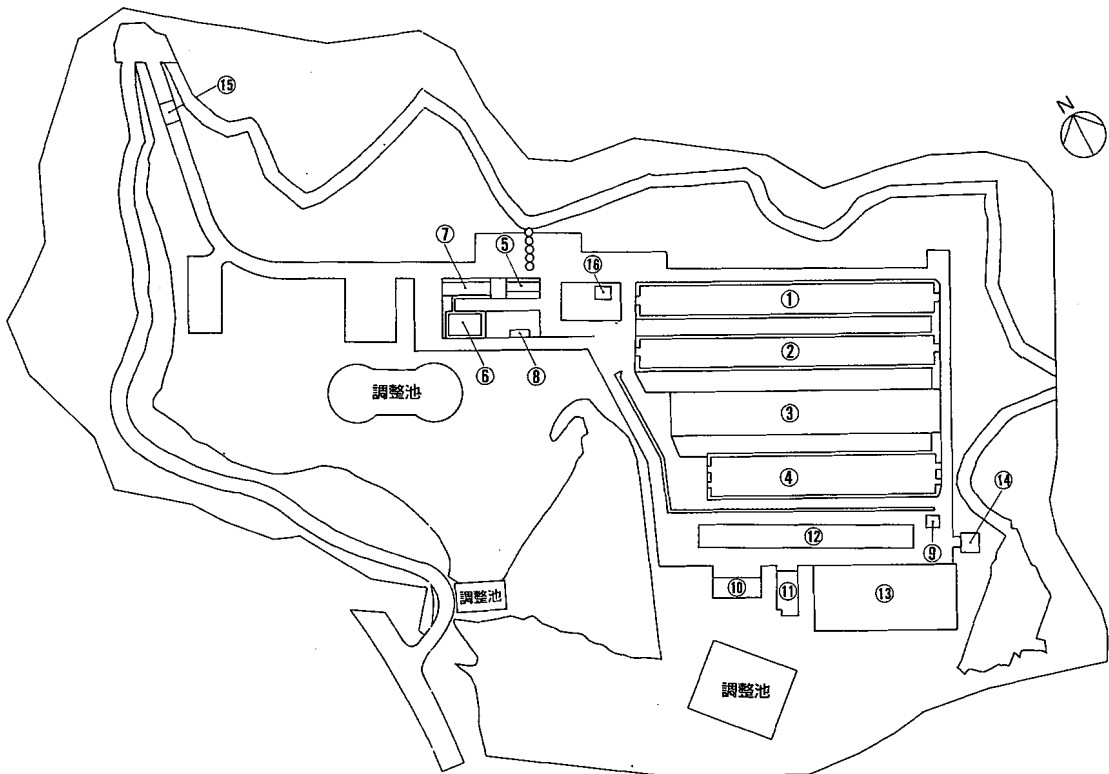
- 1) 名称 茨城県系統豚供給センター
- 2) 所在 茨城県高萩市若栗
(常磐自動車道, 高萩インターから西へ約10km)
- 3) 敷地面積 85,837m²
- 4) 主要施設 (下図)

3. これからの運営について

サクラ201の導入が6月に完了, ローズL-2とローズW-1は年度用に導入を完了する計画です。三系統が維持集団として認められる段階で維持施設としての認定をすると同時に, 清浄化農場としての手続も取りたいと思っております。

県内にGGPの機能を持った施設がありませんので, この施設を核にして県内養豚農場の衛生状況が改善されることを期待しています。

主 要 施 設



- | | | | |
|-------------|------------|-----------|------------|
| 1. 後期育成検定舎 | 2. 前期育成検定舎 | 3. 分娩離乳舎 | 4. 種豚舎 |
| 5. 出荷舎 | 6. 管理棟 | 7. 農機具資材庫 | 8. プロパン庫 |
| 9. 集糞ピット | 10. 堆肥舎 | 11. 汚水処理槽 | 12. 糞汚泥醗酵舎 |
| 13. 尿蒸散プラント | 14. 焼却炉棟 | 15. 消毒ゲート | 16. 防火用水 |